

後ろ向き観察研究

患者さんへの情報公開文書（ホームページ用周知文書）

研究題名：胸腹部大動脈瘤人工血管置換術後の呼吸機能変化の検討

●はじめに

胸腹部大動脈瘤は破裂すれば致命的な疾患であります。その治療法である人工血管置換術も体への負担が大きい手術です。この手術を行うためには、左側の横隔膜を一旦切離する必要があります。もちろん最終的には修復してから手術を終了するのですが、この横隔膜切離・修復が手術後の呼吸のしにくさに関連していると言われております。そのため、もともと肺が悪い患者さんの場合、この手術を受けて頂くことをためらうこともあります。しかしながら、この手術を受けることで、手術後にどの程度、呼吸がしにくくなり、そして最終的にどの程度まで回復するのかを詳細に調べた研究はあまりありません。これが分かれば、どのような患者さんに手術を行ってよいのか、今後、どのようなリハビリを行えばよいか分かるかもしれません。

●研究対象のご説明

札幌医科大学心臓血管外科で2014年1月1日から2016年12月31日までに、胸腹部大動脈瘤に対して手術加療を施行致しました、30名の患者さんを対象にしております。

●研究内容と患者さんに日常診療以外の負担や経費が生じないことの説明

当科での入院時及び外来での検査データ（呼吸機能検査値やCT画像）を用いて研究を行います。尚、この研究を行うことで、対象の患者さんに通常診療以外の余分な負担は生じません。

●患者さんの個人情報の管理について

本研究では個人情報の漏洩を防ぐために、個人を特定できる情報を削除し、データのデジタル化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取っています。本研究の実施経過及び、その結果の公表の際には（学会や論文等）、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

●患者さんがこの研究に診療データを提供したくない場合の措置について

2014年1月1日から2016年12月31日までの間で、当院で胸腹部大動脈瘤の治療を受けられた患者さんの中で、この研究に診療データを提供したくない方は、下記までご連絡ください。ただし、あなたからのご連絡を頂いた時点ですでに研究結果が論文等に公表されている場合や、研究データの解析が終了している場合には解析結果からあなたに関するデータを取り除くことができず、研究参加を取りやめることができなくなりますのでご了承ください。

ださい。

●**利用する情報**

カルテ情報（診断名、手術時年齢、性別、既往歴、手術情報、入院期間、術後合併症など）、CT 検査画像、呼吸機能検査値など

●**研究期間**：病院長承認日から平成 30 年 12 月 31 日まで

●**医学上の貢献**

大動脈瘤の治療に関して、新たな治療法の一助になり、今後の患者さんの治療と健康に貢献できます。

●**問い合わせ先**

〒060-8543 札幌市中央区南 1 条西 16 丁目

札幌医科大学附属病院 心臓血管外科

研究責任者：心臓血管外科 助教 仲澤順二

連絡先： 代表：011-611-2111

【平日】札幌医科大学 心臓血管外科教室（内線 33120）

【休日・夜間】5 階北病棟看護室（内線 33210）